

## 農業農村工学サマーセミナー2021 活動報告 Report on Summer Seminar in 2021 supported by JSIDRE

○長瀬由佳\*, 楠堂紡\*\*, 筏津春花\*\*\*, 鈴木友志\*\*\*\*

○NAGASE Yuka\*, KUSUDO Tsumugi\*\*, IKADATSU Haruka\*\*\*, SUZUKI Yushi\*

**1. はじめに** 農業農村工学サマーセミナー（以下、サマーセミナー）とは、毎年開催の農業農村工学会大会講演会の終了後に、全国の大学、研究機関および民間企業から学生や若手研究者が集まり、農業農村工学に関わるテーマについてさまざまな角度から議論を行うとともにお互いの研究活動について情報交換を行う自主研修企画のことである。1996年以降ほぼ毎年継続的に開催されてきた。この企画は、2021年度で第22回を迎えた。2020年度に引き続き、2021年福島県で開催される予定であった第70回農業農村工学会大会講演会はオンライン開催となったため、サマーセミナーもオンラインによる開催とし、当日は最大27名の参加者が集まった。本報では、2021年度サマーセミナーの運営方法や企画内容、および参加者からの感想を紹介する。

**2. 2021年度サマーセミナーの企画運営** 学会誌会告ページ、ホームページ、および農業農村工学会 LINE 公式アカウントを活用した広報を行った。ビデオチャットサービス「Zoom」のブレイクアウトセッション機能を用いて参加者を小グループに分け、Google社のプレゼンテーションスライド作成ツール「Google Slides」を用いてディスカッションを行った。タイムテーブルやディスカッションなどの大まかな流れについては、初のオンライン開催である2020年度サマーセミナーを踏襲した。具体的な方法については既往文献<sup>2)</sup>を参考にされたい。2020年度の改善点として「オンラインでのディスカッションの難しさ」が挙げられたため、2021年度は「参加者が気軽に意見を出し合える環境を作る」ことを目標として企画立案を行った。

サマーセミナーでは、例年、当時の社会情勢や大会講演会開催地の農業の特色などに関連したメインテーマおよびディスカッションテーマを設定している。2021年度のメインテーマは、他大学・他機関の学生や研究者と交流を深めたいという思いから、「サマーセミナーから NN 的防災・減災を考える—若手がつながる交流の場を目指して—」とした。ディスカッションテーマは、「災害・防災について農業農村工学ができること」および「サマーセミナーで動画を作るとしたら」の2本立てとした。

**3. サマーセミナー当日の活動** 2021年度サマーセミナーは、大会講演会最終日の9月3日（金）の夜から4日（土）の夕方までとした。参加者27名の内訳は、社会人が4人、博士課程の学生が4人、修士課程の学生が10人、学部学生が9人であり、7大学からの参加登録があった。

アイスブレイクでは、翌日のディスカッションに向けて参加者の緊張をほぐすため、自己紹介やゲームを行った。その後の懇親会では、距離の概念を導入したビデオチャットツール「Spatial Chat」を使用した。

---

\*サンスイコンサルタント（株） SANSUI CONSULTANT Co., Ltd, \*\*近畿大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Kindai University, \*\*\*鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科 Graduate School of Sustainability Science, Tottori University, \*\*\*\*京都大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Kyoto University  
キーワード：サマーセミナー、若手交流、オンライン

ディスカッションの様子を Fig. 1 に示す。「災害・防災について農業農村工学ができること」について、一般の人々に科学的知見をより信頼してもらうために、災害予測システムの精度向上や YouTube などメディアを交えた情報発信が必要であるという意見、国や地方公共団体と農家を繋ぐことが農業農村工学を研究する者としての役割であるという意見などが挙げられた。「サマーセミナーで動画を作るとしたら」、どのような動画を作るかについて、グループごとに構成を考え、コンペ形式で発表・投票を行った。動画のアイデアとして、サンドボックスビデオゲーム「マインクラフト」内で実在の農業水利施設を再現して建築する案、ライブ配信者に農業農村工学に関する質問とスーパーチャットを送って視聴者の興味を惹く案、雨量観測の精度や鳥獣対策用ドローンの効果を検証する案、高校生向けのオープンキャンパス用として新しい農業農村工学の取り組みを紹介する案、短い動画時間で農業農村工学に関連する身近な題材（流しそうめん、泥団子、降雨）を扱う案など、中学生から大学生まで若い世代を対象として農業農村工学分野に興味を持ってもらうことを目的とした様々な意見が挙げられた。



Fig. 1 オンラインでのディスカッションの様子  
Pictures of online discussion

**4. 今後のサマーセミナーについて** サマーセミナー終了後に、参加者を対象にアンケート調査を行い、実行委員会を含めた参加者 24 名より回答を得た。サマーセミナーについて、100%の参加者から「楽しかった」という回答を得た。ディスカッション自体も、約 92%の参加者が「楽しめた」と回答した。実行委員会の対応について、約 96%の参加者が「良かった」と回答し、「スムーズな進行ができていた」という意見も得られた。来年以降の開催について、約 67%の参加者が「対面型の研修会」を希望し、約 33%の参加者が「オンラインでの開催」を希望した。対面を希望する理由として、「やはり直接会って話したい」、「対面の方が仲良くなれる」という意見が挙げられた。オンライン開催を希望する理由として、「日程や費用を気にせず参加できる」、「スライド作成作業がしやすい」という意見が挙げられた。また、「オンラインでも快適にディスカッションできて良かった」という感想や、「同じ分野の学生や OB と知り合えて良かった」のように初対面の方との交流が有意義であったという感想が挙げられた。今後参加したい企画として、「雑談やオンラインボードゲームなどの交流会」が最も多い票を獲得し、「スライド作成など研究に関するノウハウの共有」、「現場見学会」が続いた。

**5. おわりに** 2 回目のオンライン開催となった 2021 年度サマーセミナーは滞りなく終了した。今後の課題として、実行委員会以外の一般参加者を増やすこと、若手が交流できる機会を増やすことが挙げられる。

**謝辞** 毎年、当セミナーにご支援ご協力いただいている農業農村工学会、および学会所属の全国の大学の先生方に心よりお礼申し上げます。今年度以降もご協力のほど、よろしくお願いいたします。

**参考文献** 1) 中桐貴生 (2015) : 学生自主企画サマーセミナーの歴史, 平成 27 年度農業農村工学会大会講演会要旨集, pp.54-55  
2) 鈴木友志, 浅田洋平, 辰野宇大, 松田壮顕, 大山幸輝, 大藤諭 (2021) : 農業農村工学サマーセミナー2020 活動報告, 農業農村工学会誌, 89(6), pp.41-44